

ビーミーっ子の丘の学校だより

笑顔いっぱい・歌ごえいっぱい・花いっぱい
地域の風がいきかう学校 三田市立ゆりのき台小学校

《主体的に学ぶということ》

2月に入りました。先日、新たな年明けを迎えたと思っていたら、もう1か月が過ぎました。明日は節分、明後日は立春です。「一陽来復」「冬きたりなば春遠からじ」・・・時の流れの速さを感じます。

2月の全校朝会では「問い」について話しました。今も昔も主体的に学ぶ子を育てることは、社会を生き抜くうえで必須です。指示待ち、受け身であることは「教わる」上では良いかもしれませんが、「学ぶ」上では好ましくありません。

「節分」でクイズを考えさせてみました。「どうして豆をまくの?」「なぜ、イワシの頭を飾るの?」「ひいらぎにはどんな意味があるの?」など、いろんな問いが生まれるでしょう。それらは、調べればすぐに答えが見つかります。でも、そこからさらに「次の問い」が生まれるかどうか大切です。「いつごろから始まったか」「恵方は誰がきめるのか」など、考えれば次々と「問い」が生まれます。また、「鬼を大切にしている地域はあるのか」「そこに住む人々はどんな気持ちで節分を迎えるのか」など、少し時間をかけなければ解けない問いもあります。今の時代、インターネットやAIを駆使すれば、一般的、表面的な答えはすぐに得られます。ですが、そこでとどまっていたら、本当の意味での「学力」や「生きる力」の育成にはつながらないと考えます。

お茶碗に盛られたご飯は、「お米がどうやってご飯になるか」を考えれば家庭科、「どこでとれたお米か」を考えれば社会科、立ち上る湯気を見て「この湯気は・・・」と考えれば理科というように、「問い」をもてば、世界はどんどん広がります。そして、その問いがつながり、読んだり尋ねたりしながら調べていけば、学ぶ力はどんどん身につけていきます。学校の学習も同じです。教室で先生から出された問題や宿題をただ言われたままに作業として取り組むのか、自分で「問い」をもって取り組むのかで大きな違いが生まれます。また、一度調べて出た答えに何の疑問も持たず、それが正しいと思いこみ次のステップに向かわなければ、学び取る力はそこでとどまってしまいます。

ゆりのき台小学校では「主体的に学ぶ子」の育成を目標として、「探究的な問い」について授業をはじめ、さまざまところで取り組みを進めています。「どうしたらうまくいくんだろう」「それって本当かな?」「じゃあ、こっちでやってみたらどうなる?」など、子どもたちが様々な問いをもって取り組める学習をめざしています。1月27日には、その授業の一端を見ていただくべく、公開授業研究会を開催しました。当日は、市内の小学校の先生方だけでなく、中学校や高等学校の先生方、教員をめざしている生徒さん、学校運営協議会の方々など、多様な皆様にお越しいただき、さまざまな励ましのお言葉をいただくことができました。これからも、ビーミーっ子が「主体的に学ぶ力」を身につけられるよう、取り組みを進めていきたいと思っております。学びのアンテナ高く、学校の学習や身の回りのことに「あれ?」「なぜ?」と引っかかることができるよう、ご家庭でも折に触れ、お声かけいただければ幸いです。

20日(金)には、今年度最後の授業参観日を予定しています。熱心に学ぶビーミーっ子の姿と、問いを考え、授業を工夫している先生の姿をご覧いただければ嬉しく思います。また、お忙しいとは思いますが、その後の学級懇談会にも多数ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

【季節とともに】

2月は立春、暦の上では「春」です。しかしながら、旧暦の「如月(きさらぎ)」は寒くて衣を重ねる「衣更着」が語源と言われています。1年で最も寒い時期でもあります。体調を崩されることのないようお気を付けてください。

節分は季節を分ける節目という意味で、二十四節気の立春、立夏、立秋、立冬の前日を差すため、本来は年間4回あるのだそうです。旧暦では立春が新年あたるため、2月の節分が今でいう大晦日にあたり、それが残ったため、今では春の節分が一般的になったとか。また、これより前の約18日間を「土用」とよび、この間は農作業や建築等、土にまつわる仕事を避け、どうしてもしなければならないときは軽作業をしていたそうです。季節とともに生きる昔の人の知恵を感じます。

ちなみに11日は建国記念の日ですね。日本国ができたのが、2月11日なのでしょうか?この日を含め、祝祭日の由来を調べてみるのもおもしろいかもしれませんね。

校長農園の(大きな)かぶ、1年生が掘ってくれました。「うん、」ですぐに抜けましたが・・・

